

絵の具とみなと

4年 物語文 7番

名前

月曜日の朝、はるとは大きいそでで学校へ走っていた。ランドセルの中は、きつとちゃんとそろっている。そう思っていた。空はよく晴れて、風が気持ちよかった。

三時間目は、はるとの大きな図工だった。「今日は、絵の具で秋の絵をかきましょう。」先生の声に、教室がわくわくした空気につまれた。ところが、はるとがふでばこの横をさがしても、絵の具のセットが見つからない。「あっ……家にわすれた。」おねがどきどきして、顔がだんだん赤くなっていった。まわりの友だちは、もう楽しそうに絵をかき始めている。はるとは、一人だけ何もできずに、こそこそと下を向いていた。

その時、となりのせきのみなとが、そつと声をかけてくれた。「はると、これ、いっしょに使おう。」みなとは、自分の絵の具を、はるとのつくえの真ん中においてくれた。「でも、みなとの分がへっちゃやうよ。」はるとが小さな声で言うと、みなとはにっこりわらった。「二人で使えば、二ばい楽しいよ。」その言葉は、まるであたたかい日ざしのように、はるとの心をぽかぽかにした。

二人は、赤や黄色をまぜながら、秋の山の絵をかいた。はるとの絵は、今までで一番きれいにできあがった。帰り道、はるとは心に決めた。「明日は、ぼくが何かこまっている人を助けよう。」次の日、はるとは元気な声で言った。「みなと、きのうはありがとう。」二人のわらい声が、青い空にひびいていった。



School Stock 『絵の具とみなと』より

(1) この物語の出来事は、いつ・どの時間に起きていますか。文しようから書きぬきましょう。

(2) 絵の具を家にわすれたことに気づいたとき、はるとはどんな気持ちでしたか。正しいものを一つえらびましょう。

ア うれしくてわくわくする気持ち
イ こまって、はずかしい気持ち
ウ ねむくてたいくつな気持ち
エ おこって、はらが立つ気持ち

(3) 「まるであたたかい日ざしのように、はるとの心をぽかぽかにした」とありますが、これはどんな様子を表していますか。かんたんに書きましょう。

(4) つぎの出来事を、話のじゅんばんにならべて、番号を書きましょう。

() みなとが絵の具をいっしょに使おうと言った。
() はるとが絵の具を家にわすれたことに気づいた。

() 次の日、はるとがみなとにお礼を言った。
() 二人で秋の山の絵をかいた。

(5) はるとは、この出来事とおして、どんなことを思うようになりましたか。文しようの言葉を使って書きましょう。

書き方のヒント

「はるとは、はじめだったが、みなとの言葉で」と思うようになった」の形で書こう。
文しようの中のはるとの気持ちの言葉を使おう。

絵の具とみなと

解答

4年 物語文 7番

名前

月曜日の朝、はるとは大いそぎで学校へ走っていた。ランドセルの中は、きつとちゃんとそろっている。そう思っていた。空はよく晴れて、風が気持ちよかった。

三時間目は、はるとの大すきな図工だった。「今日は、絵の具で秋の絵をかきましょう。」先生の声に、教室がわくわくした空気につつまれた。ところが、はるとがふでばこの横をさがしても、絵の具のセットが見つからない。「あっ……家にわすれた。」おねがどきどきして、顔がだんだん赤くなっていった。まわりの友だちは、もう楽しそうに絵をかき始めている。はるとは、一人だけ何もできずに、こそこそと下を向いていた。

その時、となりのせきのみなとが、そつと声をかけてくれた。「はると、これ、いっしょに使おう。」みなとは、自分の絵の具を、はるとのつくえの真ん中においてくれた。「でも、みなとの分がへっちゃやうよ。」はるとが小さな声で言うと、みなとはにっこりわらった。「二人で使えば、二ばい楽しいよ。」その言葉は、まるであたたかい日ざしのように、はるとの心をぽかぽかにした。

二人は、赤や黄色をまぜながら、秋の山の絵をかいた。はるとの絵は、今までで一番きれいにできあがった。帰り道、はるとは心に決めた。「明日は、ぼくが何かこまっている人を助けよう。」次の日、はるとは元気な声で言った。「みなと、きのうはありがとう。」二人のわらい声が、青い空にひびいていった。



School Stock 『絵の具とみなと』より

(1) この物語の出来事は、いつ・どの時間に起きていますか。文しようから書きぬきましょう。

(月曜日の) 三時間目 (の図工の時間)

(2) 絵の具を家にわすれたことに気づいたとき、はるとはどんな気持ちでしたか。正しいものを一つえらびましょう。

ア うれしくてわくわくする気持ち

イ こまって、はずかしい気持ち

ウ おねおねとわくわくする気持ち

エ おこって、はらが立つ気持ち

(3) 「まるであたたかい日ざしのように、はるとの心をぽかぽかにした」とありますが、これはどんな様子を表していますか。かんたんに書きましょう。

(例) みなとのやさしい言葉で、はるとの心が安心してうれしくなった様子。

(4) つぎの出来事を、話のじゅんばんにならべて、番号を書きましょう。

() みなとが絵の具をいっしょに使おうと言った。

() はるとが絵の具を家にわすれたことに気づいた。

() 次の日、はるとがみなとにお礼を言った。

() 二人で秋の山の絵をかいた。

2 ↓ 1 ↓ 4 ↓ 3

(5) はるとは、この出来事とおして、どんなことを思うようになりましたか。文しようの言葉を使って書きましょう。

(例) 自分も、何かこまっている人を助けようと思うようになった。

書き方のヒント

「はるとは、はじめだったけど、みなとの言葉で〜と思うようになった」の形で書く。

文しようの中のはるとの気持ちの言葉を使う。

問1 （月曜日の）三時間目（の図工の時間）

「月曜日の朝」「三時間目は……図工だった」から、いつのことかを読み取ります。場面が変わる言葉に気をつけましょう。

問2 イ

「おねがどきどきして、顔がだんだん赤くなっていった」「こそこそと下を向いていた」から、こまってはずかしい気持ちが分かります。

問3 （例）みなとのやさしい言葉で、はるとの心が安心してうれしくなった様子。

「あたたかい日ざしのように」は、たとえ（比ゆ）です。心がぽかぽか＝あたたかく、うれしい気持ちになったことを表します。

問4 2 → 1 → 4 → 3

「気づいた」→「みなとが言った」→「二人でかいた」→「次の日お礼」の順です。時をあらわす言葉（その時、次の日）を手がかりにします。

問5 （例）自分も、何かこまっている人を助けようと思うようになった。

「明日は、ぼくが何かこまっている人を助けよう」と心に決めた場面から読み取ります。やさしくされた気持ちが行動を変えたことに気づけると◎。